

## ウルシの収穫（掻きとり）可能本数率の年次推移

### 1 研究のねらい

本県では、ウルシは胸高直径約10cmを目途に収穫（生漆の掻きとり）が行われるが、収穫が可能となる年数の本数推移について既知の報告はなく、収穫計画は植栽木が生長してから構築されているのが現状である。そこで、収穫可能に達する年数と本数の推移を明らかにするため、調査を実施した。

### 2 試験地と方法

調査対象は浄法寺町内のウルシ試験地で、標高280mのなだらかな傾斜地(12°)である。土壌は火山灰性黒色土であるなど、漆の植栽が盛んな浄法寺町の植栽地と同様の条件である。平成2年に384本植栽し、うち活着した317本について胸高直径を測定した。植栽密度はhaあたり2,500本であるので、これら調査本数を10aあたり植栽本数250本に換算し、経過年数ごとの収穫可能本数を求めた。調査は植栽後7年経過の平成8年から14年まで実施した。

### 3 結果

植栽後7年経過では収穫可能な個体はなかったが、9年経過では7%（14本/10a）の個体が胸高直径10cmに達した（図1）。年数の経過とともに収穫可能本数割合が増加し、13年経過では67%（143本/10a）の個体が収穫可能になった。

### 4 成果の活用

生漆の収穫は掻子の1日山（注）を単位として計画されるが、現状では掻子が収穫可能となる胸高直径10cmに生長した漆樹を植栽地で確認して漆樹の確保を行っている。そこで、今回の調査結果からウルシの直径生長には林分内でバラつきがみられるが、本調査結果の植栽後経過年数における収穫可能本数率を目安にして、漆植栽後の収穫計画を構築できる。

注：掻子が1日に掻くことができる本数の単位で掻子によって異なるが約100本である。

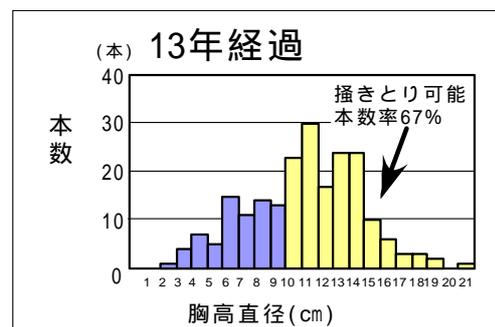
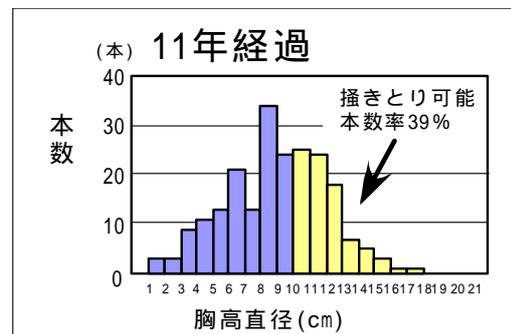
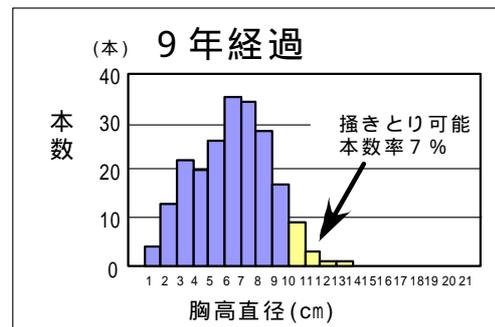
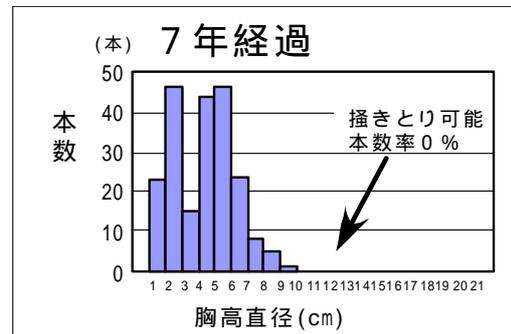


図1 掻きとり可能本数の年次推移  
（10aあたり250本植えの換算）

（担当 林産利用部 主任専門研究員 泉 憲裕）

連絡先	028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割560番地11 岩手県林業技術センター ホ - ムペ - ジアドレス	TEL 019-697-1536 FAX 019-697-1410 <a href="http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/">http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/</a>
-----	--------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------